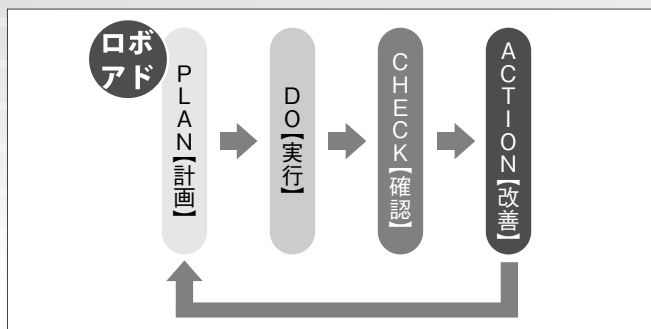
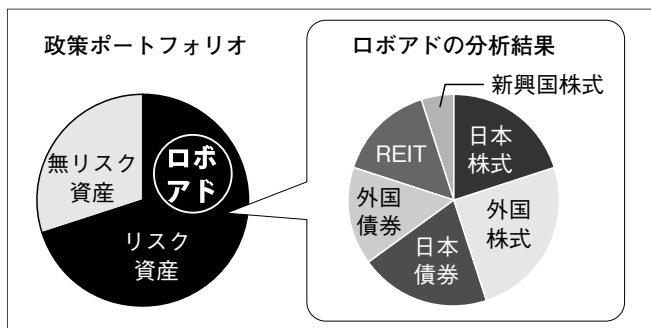


図表1 資産運用のPDCAサイクル



図表2 ロボアドの分析結果を参照する



2 ロボアドバイザーを活かした提案を考える

ライフプラン分析と ロボアドバイザーを組み合わせる

こ ここでは、ロボアドを活用した運用アドバイスについて考えてみたい。

① 定量的な情報をヒアリングするためのツールにする

運用アドバイスの基本は、PLAN（計画）→ DO（実行）→ CHECK（確認）→ ACTION（改善）というPDCAサイクルにある（図表1）。

最初の計画の段階において必要になるのが、お客さまの定性情報と定量情報を整理することである。ロボアドバイザーは、この計画段階においてお客さまの情報を収集し整理するとき役に立つ。

PDCAサイクルで最も大切

なのは「計画」である。「計画」の段階で、資産運用計画をしっかりと考えておけば、その後の「実行」で迷うことが少なくなる、「確認」の作業もルーティン化することができ、あれこれ悩むことは少ない。だから、「改善」の段階でも改善点が簡単にわかるのである。

FPがアドバイスすることを考えるのであれば、アドバイスは2段階になる。最初に、キャッシュフロー表を使ったライフプラン分析が必要になる。ライフプラン分析が完了すると、具体的な資産運用計画に移る。この時点でロボアドを使った定量分析を行っておきたい。

ライフプラン分析で陥りやすい間違いは、ライフプランのしわ寄せを資産運用に押し付けることである。

具体的に説明しよう。キャッシュフロー表を作成してみると老後資金が不足すると予想されたとする。そのとき、リスク資産の割合を増やす、あるいは、リスク資産の利回りを高くすると、キャッシュフロー表は改善される。

しかし、その人が、予想されるリスクに耐えられるのかというリスク許容度は検証されていない。もし、リスク許容度の低い人であれば、リスク資産への過度な配分や、リスクの高いも

保険など貯蓄性の高い保険もポートフォリオに組み入れられるべきである。これらの金融商品を、総じて「無リスク資産」ということができる。

FPの立場から考えたポートフォリオは、図表2の政策ポートフォリオで示されたものである。この政策ポートフォリオの中の「リスク資産」の部分で、

アドバイスをを行うのがロボアドだ。「無リスク資産」と「リスク資産」への配分はとても大切であるといえる。

これが本当の意味でのアセットアロケーションである。この時点で、リスク・プロファイル（どの程度のリスクを採っているか、どのようなリスクを採っているのかなどのリスクに関する総合的な情報）の大半が決定される。リスクを抑えたいければ、無リスク資産の割合を増やすことが解決策であり、リスク資産の配分比率の変更は安易に行うべきではない。

例えば、リスク資産の中で、日本国債の割合を増やしてリスクを低下させようと考えことは危険である。なぜなら、日本の金利が上昇すれば日本国債の価格は低下する。つまり、日本国債にもリスクは存在するのである。

ロボアドを提供している会社は、証券会社や運用会社が主で

のへの投資は避けるべきである。この時点で、ロボアドを使うと効果的である。ロボアドが平均的なリスク許容度を示しているのに、リスク資産への配分割合が50%を超えているような場合は、ライフプランに戻って再検証が必要ということになる。ほとんどのロボアドでは、リスク許容度を測る仕組みになっているので、どのロボアドを使おうとも大差はないように思える。

無リスク資産も含めた 資産配分をFPは考える

② セカンドオピニオンに使う

具体的なポートフォリオを提案するとき、ロボアドをセカンドオピニオンに使うことが可能である。注意しておきたい点は、ロボアドが提供するポートフォリオは、すべてがリスク資産で構成されていることである。すべてリスク資産構成されたポートフォリオで、その人に適し

あり、これらの会社を取り扱うものは、その多くはリスク資産である。だから、ロボアドの分析結果はリスク資産のみで構成された内容になっている。

FPとして数十年の期間で資産運用のアドバイスをを行うのであれば、政策ポートフォリオを適切に維持するようにアドバイスするのが最も大切なことである。そのうえで、リスク資産のポートフォリオを考えるときにロボアドを参照することはとても効果的であると考えられる。

ところで、ロボアドの分析結果にはどの程度の利回りが期待できるのか書かれていない。投資家から考えると最も大切な要素なのであるが、将来の不確定なことを「診断する」わけにはいかないというのが本音であろう。

その代わりに、例えば、カブドットコム証券の「FUND ME」では、推奨するファンドの過去1年間のリターン（実績